

# 第1分科会

## 初年次教育を考える

コーディネーター：茂見 岳志 氏（同志社大学 経済学部 教授）

登壇者：中村 豪 氏（東京経済大学 経済学部 教授）

橋本 理 氏（関西大学 社会学部 教授）

池埜 聡 氏（関西学院大学 人間福祉学部 教授）

川崎 友巳 氏（同志社大学 法学部 教授）

### 分科会概要：

初年次教育は学生が初めて出会う大学教育であり、学生、大学双方にとって大変重要な意味を持ちます。高校での学びから大学での学びへとスムーズに導き、また、高年時に展開される専門教育への橋渡しとなることが求められるでしょう。初年次の学習内容は幅広く、語学科目や一般教養科目とともに、学部の導入科目が設置され、あるいは、2年次へと続く基本科目が開始される場合もあるでしょう。初年次の学びとして、レポート作成、情報収集、文献検索など、その後に必要となる学びの技法の習得や、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成など、その後の専門教育では扱いにくい内容を求めることも多いのではないのでしょうか。あるいは、入学前後のプログラムとして高校での学習の復習を行うケースもあるでしょう。

さて、初年次教育とひとくくりにしても、大学によってその方向性は違うかもしれませんし、学部が違えば、学問の違いから、そこに求める内容も変わってくるのではないのでしょうか。大学・学部間での初年次の教育の在り方の共通点と相違点を俯瞰し、様々な取り組みの事例を知ることで、自分たちの初年次教育を振り返り、今後のカリキュラム改革などを行う際のヒントを得ようとするのが本分科会の目的です。

本分科会では4大学の教員に登壇いただき、所属学部の1年生の教育の現状、課題、取り組みなどについて、広く報告いただきます。そのなかで、東京経済大学の、初年次終了後に専攻を選ぶ「2年次の学部選択プログラム」、関西大学社会学部の学びの特色である「少人数制の演習科目」、関西学院大学人間福祉学部の「2020年度からの新カリキュラム」の実例、同志社大学法学部に特徴的な「ステップアップ方式のカリキュラムのファースト・ステップ科目群」、などについても報告いただく予定です。

大学・学部ごとに、それぞれの初年次教育の在り方があり、教職員ごとに、それぞれの実体験があるでしょう。分科会参加者の皆様からも、是非、ご所属での初年次教育の現状、課題、取り組みなどを教えていただければと考えております。

実りある分科会にしたいと考えております。奮ってのご参加をお待ちしております。